



荒川小学校（いちき串木野市）

気になる記事を発表

実践校1年目。1、2年生以外の20人が月1回、土曜授業の朝に新聞記事を使ったワークシートに取り組む。内容に対する考えを書く問題に約10分間で答える方式だ。

5、6年生10人はそれぞれ日直を担当する月2、3回、本紙ことも新聞「オセモコ」で気になったニュースも発表する。前日に自宅で、記事を選んだ理由や内容の要旨、自分の考えを紙にまとめる。クラスの前でスピー

チした後、紹介した記事と発表内容を教室前に掲示している。

担当する田中一良教諭（44）は「購読している家庭は多くなく、子どもが新聞に触れられる機会。発表を通じ、話題選びがうまくなっている」と説明する。6年の甲斐誠人君は「最初はスポーツにしか興味がなかったけど、新型コロナウイルスとかいろんな記事を読むようになったと胸を張った。」

（荒川卓也）

が
ご
し
ま

N
I
E
実
践
校

新聞作りのために興味ある記事を選ぶ生徒たち



れいめい中学校（薩摩川内市）

グループで新聞作り

「みんな記事を選べましたか」。前田美咲教諭（27）の声が教室内に響く。実践校になって3年目。1年生を対象に5コマの授業をしている。

31人の生徒を8グループに分け、それぞれテーマを決めて新聞を作る。スポーツ記事だけの新聞や紙面の隅っこに載った記事を集めたものなどさまざまな新聞ができる。成果は発表する。この日は素材となる記事を選び、スクラップした。

れいめい中学校は「夢発見プロジェクト」と名付け、中学校の3年間をかけて地域創生のアイデアを作り上げる授業を実施。成果は薩摩川内市に提言している。NIEはそのための国語力育成に役立てる。

「発表のために言葉を調べたり、熟語に触れたりと力が伸びる」と前田教諭。生徒には「言いたいことが伝わるようにしよう」と呼びかける。

（高嶺千史）